

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	現代の国語	所属教科	国語科	単位数	2 単位
指導概要 と 習得目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成するという「目標」を踏まえ、「内容」に示された「知識及び技能」の3事項と「思考力、判断力、表現力等」の3領域の学習が効率的・有機的に行えるようにするとともに、「学びに向かう力、人間性等」を十分に養う。				
指導 計画 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数 (予定)	
	1	① 自己を見つめる ・こそめスープ ・ルボカミの青 ② 他者に出会う ・未来をつくる想像力 ・水の東西	① ア なじみやすい作品に触れる中で高校国語の概要を学ぶ。 イ ノートの取り方、予復習の仕方を学ぶ。 ウ 「読むこと」にて筆者の主張の要旨を捉え、文章の構成や論理の展開などを認識し自分の考えを深める。 ② ア 言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解する。 イ 情報の妥当性、信頼性の吟味、比較を通じて理解を深める。	28 時間	
	2	① 視野を広げる ・空が育てる都市の緑と生命のつながり ・無彩の色 ② 社会と関わる ・鍋洗いの日々 ・森で染める人	① ア 言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解する。 イ 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を得るなどして自分の考えを深める。 ② ア 常用漢字の読みに慣れる。 イ 体験談を通して仕事に対する筆者の思いから職業についての見聞を深める。	28 時間	
	3	① 世界とつながる ・美しさの発見 ② 未来に目をむける ・真の自立とは	① 「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考え方を深める。 ② 積極的に現代の状況に関心を持ち、「自立」という観点から他者と話し合い理解を深める。	14 時間	
授業展開	座学を中心としながら、コンピュータを活用した語句・内容の調べ物学習を通して考察するよう工夫して指導する。				
使用教材 等	「新編現代の国語」 東京書籍 「新編現代の国語学習課題ノート」 東京書籍 「常用漢字ダブルクリア」 尚文出版				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
主な 評価 方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、定期テストでの漢字の復習と日頃の小テストとの比較検討を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	言語文化	所属教科	国語科	単位数	1 単位
指導概要 と 習得目標	言語文化に対する関心と理解を深め、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を育成し、社会人として求められる言語能力を身につけられるよう指導し、言語文化への興味・関心を広げられる態度を育てる。「内容」に示された「知識及び技能」の二事項と、「思考力、判断力、表現力等」の二領域の学習が効率的・有機的に行えるよう指導する。				
指導 と 計画 と 評価	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数（予定）	
	1	① 随筆 ・さくらさくらさくら ・「美しい」ということ ② 小説 ・とんかつ	① ア なじみやすい作品に触れる中で高校国語の概要を学ぶ。 イ ノートの取り方、予復習の仕方を学ぶ。 ウ 「読むこと」にて筆者の主張の要旨を捉え、文章の構成や論理の展開などを認識し自分の考えを深める。 ② ア 言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解する。 イ 学習課題にそって、登場人物の心情とその変化を読み取り理解を深める。	14 時間	
	2	① 古文入門 ・古文に親しむ ・児のそら寝 ・用光と白波 ・絵仏師良秀	ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 イ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや古典特有の表現などについて理解する。 ウ 学習課題に沿って登場人物の心情を読み取る。	14 時間	
	3	① 漢文入門 ・訓読の基本 ・故事成語 三編	ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 イ 漢文の特色や訓読の決まりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考察する。 ウ 学習課題に沿って、故事成語の元になった話を読み、故事成語の果たす役割について理解する。	7 時間	
授業展開	座学を中心としながら、コンピュータを活用した語句・内容の調べ物学習を通して考察するよう工夫して指導する。				
使用教材 等	「新編現代の国語」 東京書籍 「新編現代の国語学習課題ノート」 東京書籍 「常用漢字ダブルクリア」 尚文出版				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
主な 評価 方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、定期テストでの漢字の復習と日頃の小テストとの比較検討を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	地理総合	所属教科	地理歴史	単位数	2 単位
指導概要 と 習得目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して理解し、地理情報を調べまとめる技能を身につける。 (2) 地理的な課題の解決に向けて構想、考察し議論する力を養う。 (3) 地理的諸事象に関する課題を主体的に解決しようとする態度を養い、多様な生活文化を尊重することの大切さを深く自覚する。				
指導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数（予定）
	1	A 地図や地理情報システム でとらえる現代世界 B 国際理解と国際協力 「生活文化の多様性と 国際理解」	(1) 地球儀と地図 (2) 地図と地理情報システム (3) 現代世界の国家と領域 (4) 地図から見る国内や国家間の結びつき (1) 世界の地形と人々の生活 (2) 世界の気候と人々の生活		28 時間
	2	B 国際理解と国際協力 「地球的課題と国際協力」	(3) 世界の産業と人々の生活(4)世界の宗教・民族・言語と人々の生活(5)多様な生活文化と地理的環境 (1) 人口問題 (2)食糧問題 (3) 都市・居住問題		28 時間
	3	C 持続可能な地域づくりと 私たち	(4) 感染症・衛生問題 (5)資源・エネルギー問題 (6) 地球環境問題 (1)日本の自然環境 (2) 地震・津波や火山活動による 災害と防災 (3) 気象災害と防災 (4) 自然災害への備え		14 時間
授業展開	座学を中心としながら、地図や地理情報システムを活用する地理的な技能を身につけられるよう指導する。また、生徒一人一人が、現代社会の基本的地理的諸事象を理解しながら、主題や課題を設定して追求・考察できるよう工夫しながら指導する。				
使用 教材等	教科書：「高校生の地理総合」（帝国書院）「標準高等地図」（帝国書院） 副教材：「高校生の地理総合ノート」（帝国書院）				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	- 現代世界の地理情報を読み取り、まとめる基礎的・基本的な知識や地理的技能を身につけている。 - 世界の多様な生活文化が地理的環境の影響を受けて成り立っていることを理解している。 - 様々な地球的課題を理解し、解決には持続可能な社会の実現と国際協力が必要であることを理解している。 - 自然災害等地理的事象の発生に対応の重要性を理解し、情報収集等の技能を身につけている。 - 生活圏の地理的課題の解決に向けた取り組みや探求する手法などを理解し、身につけている。	- 現代世界の構成について、結びつきなどを多面的に考察し地図や情報システムを用い表現できる。 - 世界の生活文化について、特徴を自然・社会環境から多面的に考察し表現できる。 - 地球的課題について、地域の結びつきやSDGsに着目して、現状や要因、解決の方向性を考察し表現できる。 - 地域性を踏まえた防災について、多面的に考察し表現できる。 - 生活圏の地理的課題について、多面的に考察、課題解決に求められる取り組みなどを構想し表現できる。	- 地理的な知識や技能を主体的に身につけようとしている。 - 世界の多様な生活文化に興味をもち、相違を地理的に理解し、国際社会を生きようとしている。 - 様々な地球的課題を自分の問題として理解し、解決方法を構想しようと努力できる。 - 生活圏の防災や地理的課題解決に向けて、主体的に取り組んでいる。
主な 評価 方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	数学 I	所属教科	数学科	単位数	4 単位
指導概要 と 習得目標	数と式、2 次関数、図形と計量、データの分析を学ぶなかで、数学的な思考・計算力を身につけ、数学に対する興味・関心を高める。				
指導 計画 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数 (予定)	
	1	◎数と式 式の計算 整式の加法・減法 整式の乗法 因数分解 実数 実数 根号を含む計算 1 次不等式 不等式の性質 1 次不等式 絶対値を含む式 集合と命題 集合 命題と条件 命題・逆・対偶・裏 命題と証明	(進度によりずれることもある) 多項式と単項式、整式の整理、整式の加法と減法 単項式の乗法、整式の乗法、展開の公式、展開の工夫 共通因数のくくり出し、公式の利用、たすき掛け、工夫 有理数、実数、数直線と絶対値 平方根、根号を含む式の計算、分母の有理化、(2 重根号) 1 次方程式、不等号と不等式、不等式の性質 1 次不等式と解き方、連立不等式、1 次不等式の応用 絶対値を含む方程式・不等式、絶対値と場合分け 集合と要素、集合の表し方、部分集合、共通部分と和集合、 補集合、ド・モルガンの法則 命題、条件、命題 $p \Rightarrow q$ 、必要条件と十分条件、 条件の否定、「かつ」、「または」と否定 命題の逆とその真偽、命題の対偶 対偶を利用する証明、背理法を利用する証明	56 時間	
	2	◎2 次関数 2 次関数とグラフ 関数とグラフ 2 次関数のグラフ 2 次関数の値の変化 最大・最小 2 次関数の決定 2 次方程式・不等式 2 次方程式 X 軸の位置関係 2 次不等式 ◎図形と計量 三角比 三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張	(進度によりずれることもある) 関数、関数のグラフ $y=ax^2$, $y=ax^2+q$, $y=a(x-p)^2$, $y=a(x-p)^2+q$ 、平方完成 2 次関数の最大・最小、2 次関数の定義域と最大・最小 放物線の頂点や軸から関数を決定、3 点から関数を決定 因数分解による解法、解の公式、係数と実数解、判別式 2 次関数のグラフと X 軸の共有点の座標・位置関係 1 次不等式、2 次不等式、解き方、応用、連立不等式 正弦・余弦・正接、 30° 45° 60° の三角比、三角比の表、 三角比の相互関係、 $90^\circ - \theta$ の三角比 座標を用いた三角比の定義、 $180^\circ - \theta$ の三角比、 三角比の等式を満たす θ 、三角比の相互関係	56 時間	
	3	三角形への応用 正弦定理 余弦定理 定理の応用 三角形の面積 ◎データの分析 データの整理 データの代表値 四分位数 分散と標準偏差 データの相関	(進度によりずれることもある) 三角形の外接円と正弦、正弦定理 余弦定理、三角形の角の余弦を表す式 三角形の辺と角 正弦と三角形の面積、3 辺の長さとの面積 度数分布表、ヒストグラム 平均値、最頻値、中央値 範囲、四分位数、箱ひげ図 分散・標準偏差、分散と平均値の関係式 散布図、正の相関・負の相関、相関係数	28 時間	

2025 年度 教科授業計画と評価について

授業展開	基本的には講義形式で行うが、併せてプリント学習で演習授業を取り入れる。 各科とも共通の教材、試験問題を使用、成績も一律並行して評価する。 定期テスト、授業態度、宿題等を考慮して、評価する。 必要に応じて、追試、補習によって学力の補充を行う。
使用教材等	教科書「最新 数学Ⅰ」（数研出版）、問題集、プリント、各種教具を使用する。 教科書・問題集は全員購入する。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析についての基本的な概念や原理、法則を理解している。 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析について、基本的な計算を行うことができる。	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析についての基本的な原理や法則を理解して上で、問題解決に適切な計算を選択できる。 また、問題解決の過程を適切に表現できる。	学習した内容を積極的に利用しようとしている。 粘り強く問題に取り組む姿勢を有するとともに、課題等へ主体的に取り組んでいる。
主な評価方法	・定期考査 ・課題の内容	・定期考査 ・課題の内容	・授業への取り組み ・課題への取り組み

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	地学基礎	所属教科	理 科	単位数	2 単位
指導概要 と 習得目標	1. 地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもち、地学的に探究する能力と姿勢を育てる。 2. 現在の地球から宇宙の誕生に至るまでを、時間的・空間的な広がりの中でとらえる。 3. 地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数 (予定)	
	1	1 章 地球の構成と運動 1 節 地球の構造 2 節 プレーートの運動 3 節 地震と火山震	地球のスケールを理解し、その歴史をふまえ学ぶ。 固体地球の層構造や構成物質の化学組成を学び、次に学ぶプレートにつなげる。 プレートの沈み込み地帯で起こる地震現象と、それに伴う変動地形と変成作用を理解する。 プレートの運動について学び、火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることについてふれる。 マグマの性質と火山の噴火形式と地形の関係を理解する。	2 8	
	2	2 章 大気と海洋 1 節 大気の構造と運動 2 節 大気の大循環 3 節 海洋の構造と海水の運動 1 節 地層と化石 4 節 日本の四季の気象と気候 3 章 宇宙、太陽系と地球の誕生 1 節 宇宙の誕生 2 節 太陽の誕生 3 節 惑星の誕生と地球の成長	大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。 太陽の放射エネルギーが大気の運動を生じさせ、気象の変化を起こしたり、熱収支のバランスを保ったりすることを理解する。 また、海洋も同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。 太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の性質を分析する方法や恒星の進化の過程や時間スケールを理解する。 太陽系の他の惑星と比較しながら地球の特徴を調べ、地球の誕生について学ぶ	2 8	
	3	4 章 古生物の変遷と地球環境の変化 1 節 地層のつき方 2 節 化石と地質時代の区分 3 節 古生物の変遷と地球環境 第5章 地球の環境 1 節 日本の自然環境 2 節 地球環境の科学	地球と生命の歴史をひもとき、地球と生命の関係の理解を深める。生物界や地球環境の変遷とそれを調べる方法、及び地質時代の区分や時間スケールを理解させる。また、ヒトの進化を扱いながら、ヒトを歴史的存在としてみる見方を身につけさせる。 時間スケールの大きな環境問題を考えるために、いくつかの断面からの見方を総合して、全地球的にとらえさせる。 日本の自然環境の特徴を知るとともに、そこで起こっている災害を理解する。	1 4	
授業展開	授業はHR教室を利用する。評価は定期考査の得点を中心とし、出欠状況・授業態度・提出物などについて総合的に判断する。				
使用教材等	教科書：「地学基礎」（実教出版）				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	地学的な現象や地球環境について、地球と宇宙との関連や地球の歴史に基づき、理解に努める姿勢を身に付けている。	地学的な現象や地球環境に関する疑問に対し、地球や宇宙の活動、地球の歴史を基に、科学的に理解しようとする力を身に付けている。	地学的な現象や地球環境に関し、自ら文献を調べたり、実験等に積極的に参加したりすることで、理解を深めようとする姿勢を身に付けている。
主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業や実験等に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	体育	所属教科	保健体育科	単位数	2 単位
指導概要 と 習得目標	(1) スポーツの特性に応じた体力や技能を身に着け、ルールを理解と、健康や安全に留意しながら運動を親しむ(知識・技能) (2) 運動について、自身や仲間(グループ)の課題を見つけ、解決に向けて思考判断しながら他者との対話ができる力を身に着ける(思考力・判断力・表現力) (3) 互いに協力して授業を進める中で、協調性を育てるとともに、運動の楽しさや喜びを感じることができる(学びに向かう力)				
指導 計画 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数(予定)
	1	(1) 体づくり運動	ア スポーツテスト		28 時間
		(2) 球技	ア ソフトボール イ 卓球		
		(3) 体育理論	ア スポーツの発祥と発展 ①		
	2	(4) 水泳	ア クロール イ 平泳ぎ		28 時間
		(5) 陸上	ア 持久走		
		(6) 球技	ア バレーボール イ サッカー		
		(7) 体育理論	ア スポーツの発祥と発展 ②		
	3	(8) 球技	ア バスケットボール イ バドミントン		14 時間
		(9) 体育理論	ア スポーツの発祥と発展 ③		
授業展開	基本的な技術の習得を中心に授業を展開。また個々の能力に応じた目標を設定する。				
使用教材 等	現代高等保健体育(大修館書店)				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	・競技のルールを理解し、安全なゲームの運営に協力する ・技能を習得し、実践する	・他者と協力してチームプレーを行う。また、そのための良好なコミュニケーションをとる ・自身の目標を適切に設定する	・実技に取り組むだけでなく、競技の運営や、準備・片付けも積極的に行うことができる ・体を動かすことや課題を解決することに喜びや楽しみを見いだすことができる
主な 評価 方法	・ルールや知識の理解(ゲーム運営) ・実技テスト	仲間とのコミュニケーションやグループワーク、チームワークなどを通して思考力や表現力を発揮できているか評価を行う。	準備、片づけやゲームの運営(審判)を仲間と協力して行うなど、授業へ向かう姿勢を総合的に評価する。

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	機械科・電気科・情報技術科	指導学年	2 学年
科目名	保健	所属教科	保健体育	単位数	1 単位
指導概要 と 習得目標	(1) 個人や社会生活における健康・安全について理解を深め、知識を身に着ける (知識・技能) (2) 健康について自他や社会の課題を見つけ、解決に向けて思考、判断するとともに、他者との対話ができる力を身に着ける (思考力・判断力・表現力) (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力)				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数 (予定)
	1	(3) 生涯を通じる健康	・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康		14 時間
	2	(3) 生涯を通じる健康 (4) 健康をささえる環境づくり	・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動		14 時間
	3	(4) 健康をささえる環境づくり	・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加		7 時間
授業展開	単に知識として終わらせることなく、日常生活の中でいかせるように教材等工夫していく。				
使用教材等	最新高等保健体育 (大修館書店)、最新高等保健体育ノート (大修館書店)				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・それぞれの単元について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に着けている	・健康や安全の課題について解決を目指して思考している ・グループワークにおいて自身の意見を主張したり、他者の意見に耳を傾けたりする事が出来る	・自身や社会生活の安全や健康に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている

2025 年度 教科授業計画と評価について

主 な 評 価 方 法	・授業プリントへの取り組み ・テスト	・仲間とのコミュニケーション ・グループワークへの取り組み	・授業、グループワークへ臨む姿勢 ・授業プリント、ノートへの取り組み
----------------------------	---	--	---

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	英語コミュニケーション I	所属教科	外国語	単位数	3 単位
指導概要 と 習得目標	英語を通して、情報や他人の考えを的確に理解し、自分の考えを簡単な表現で伝える能力を伸ばす。また、英語の基礎力（受動態・現在完了形を含む）を週 3 回の授業を通じ養成する。進学を希望する生徒もいることから、4 年制大学での学習の基礎となる英単語をできる限り多く、学習する。				
指 画 導 計	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数（予定）	
	1	1.現在形・過去形 2.助動詞 3.進行形 4.不定詞（名詞用法・形容詞用法・副詞用法[目的]） 5.動名詞（主語・補語・目的語として） 英語らしい発音のしかたを確認する	1. 海外からの旅行者が日本で経験を旅行サイトの掲示板に投稿する 2. ダイキがクラスメートに自分が熱中しているダンスについて話す 3. 日本のおにぎりの海外での人気について、ハルカが学校新聞に記事を書く 4. 東京五輪をきっかけに世界でも一般的になったピクトグラムについて、リョウタがスピーチをする 5. 病院で子どもたちを癒すファシリテッドッグの日本初のハンドラー、森田さんへのインタビュー 自己紹介	42 時間	
	2	6. that-節 7. 現在完了（継続・経験・完了） 8. 受け身（be 動詞+過去分詞）	6. コンビニが商品売るための工夫について、ハルカが研究発表を行う 7. 高校で水族館を運営する水族館部の生徒へのインタビュー 8. スマート農業に関するウェブサイトの記事	42 時間	
	3	9. 比較 10. 関係代名詞（who / which / that） 自分が好きな人・ものについて、まとまりのある文章を書く	9. 食品廃棄の問題について、ダイキが学校新聞に記事を書く 10. 電気もない貧しいアフリカの農村で、独学で発電のための風車を作った少年ウィリアム・カムクワンバの実話	21 時間	
授業展開	3 時間のうち 1 時間は A L T（英語指導助手）との授業、3 時間のうち 2 時間は教科書・コーパス 3000・ベーシックノートを使用した授業を原則とする。				
使用教材 等	COMET English Communication I 数研出版 コーパス 3000 東京書籍 ベーシックノート（数研）、配付するプリント教材				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	取り上げられた語句（教科書内・コーパス 3000）の意味を理解したうえで、正しく発音する技能を身につけている。 取り上げられた語句を適切な文脈において使用する技能を身につけている。	自分の気持ちや考えを伝えるために、短い英文を書いたり口頭で発表している。	本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。自分の気持ちや考えを伝えるために、現在形・進行形・過去形等を用いて短い英文を書いている。
主な 評価 方法	定期テスト（コーパス 3000 の出題範囲を含む）や提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	定期テスト（コーパス 3000 の出題範囲を含む）や提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。 JTE（または ALT）との対話内容（speaking）。	自分の好きなことやその他の事について、情報や考えを整理して発表できるかを評価する。生徒が自己評価を行った結果も参考にしながら総合的に判断して評価する。 出席率。授業中の形成的評価。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

* 目標として設定するのは「生徒の 8 割が到達できる」レベルです。

学校名	駒ヶ根工業高等学校
作成	令和 5 年 11 月

【卒業時の学習到達目標】

身近なことや興味あることについて要点を理解したり、それについて簡単な英語を用いて自分の考えを表現することができる。

【第 3 学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
易しい英語で書かれた身近なことや工業に関する文章を、何度も読み返せばあらすじや要点を理解することができる。	身近なことについて、ゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	身近なことについて、簡単な英語で自分の考えを表現することができる。	身近なことや興味あることについて、簡単な英語で伝え合うことができる。	身近なことや興味あることについて、簡単な英語で自分の考えを発表することができる。

【第 2 学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
易しい英語で書かれた物語や身近なことに関する短い文章を、イラストや写真を参考にすれば、あらすじや要点が理解できる。	身近なことや工業高校に関する話題について、簡単な英語でゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	自分自身のことや身近なことについて、簡単な英語で短く書くことができる。	定型のあいさつや身近な話題について、簡単な英語で伝え合うことができる。	自分自身のことや身近なことについて、簡単な英語で発表することができる。

【第 1 学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
身の周りにある簡単な単語や語句を読み、それらが意味することをおおよそ理解できる。	身近なことについての簡単な情報を、ゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で短く書くことができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で伝え合うことができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で発表することができる。

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程		対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	音楽 I		所属教科	芸術	単位数	2 単位(選択)
指導概要 と 習得目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。					
指 						

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽表現をしながらよさや美しさを自ら味わったり聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
主な評価 方法	実技テスト 筆記テスト	ワークシート レポート 実技テスト	授業態度 発言

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程		対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	美術 I		所属教科	芸術	単位数	2 単位 (選択)
指導概要 と 習得目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。美に関する関心を高め、作品の美しさを感じ取る力や表現する力をつけ、創造する喜びを味わう。 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の向上を図る。					
指 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容			時数 (予定)
	1	・鑑賞	教科書の作品を味わい理解する。			2 8 時間
		・手のデザイン	物の捉え方の視点を工夫して、構成的に画面に入れて表す。			
		・自画像	重色による彩描を学ぶ中で、多彩な色の使い方、重ね方を学び、主張色による表現を身につける。			
		・ポスター	駒工祭のポスター制作において、構想を練り、配色を工夫して美しいポスターに仕上げる。			
	2	・石こうデッサン	対象をしっかりと見つめ、正確にとらえるとともに、トーンに気をつけて表現する基礎力を養う。			2 8 時間
		・立体構成	幾何学体のパーツを組み合わせて立体構成する。			
		・切り絵	動植物等を白・黒の世界に単純化し、構成を考えて切り出す。			
	3	・落款 (篆刻)	石材に自分のサインとして使える文字をデザインして彫る。			14 時間
・白黒木版画		スケッチをもとにして、単純化、構成して白・黒の美しい世界を表す。				
使用教材 等	高校生の美術 I 日文 画用紙・ケント紙・水彩絵の具・水彩色鉛筆・色画用紙・木炭紙・ポスターカラー・サインペン・鑑賞教材					

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	美術の基礎を学び、制作を通して理解を深める。教科書や IT や情報を通して、美術作品の鑑賞を行う。美術史を通して、歴史や文化を理解する。社会と美術、芸術の関わりについて学習し知識を深める。 創意工夫を生かした美術表現をするために必要な技能や構図や色彩の基礎を学び、製作を通して理解を深める。	自らの手と道具を使ってモノを作り出す面白さを味わう。更に「手で触れる」ことの実感や造形美への思考を深める。 製作段階に応じて道具を使い分け判断し、道具の有能性や用途について理解を深める。 構図や色彩について、自身の作品を通して、色彩構成と画材の理解を深め、表現を養う。	主体的に学習に臨むには、以下の点を求める。「何を理解しているか、何ができるか (知識及び技能)」「理解していること、できることをどう使うか (思考力、判断力、表現力等)」「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか (学びに向かう力、人間性等)」を考え、他者に伝え、視覚的に表現することができる積極性や意欲を求める。
主な評価方法	実技課題 ワークシート	実技課題 観察	実技課題 観察

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	工業科	指導学年	1 学年
科目名	家庭総合	所属教科	家庭	単位数	1 単位
指導概要 と 習得目標	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に学習し、生活課題に取り組む実践的な態度を身につける。2年間に分け、1年次は、自分らしい生き方と家族、高齢者、について学習する。				
指導 計画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数(予定)
	1	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く		10時間
		第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる	・さまざまな生き方について学ぶ ・家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解し、社会制度としての家族や家族と法律について学ぶ		
	2	3 これからの家庭生活と社会	・仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて学ぶ		18時間
		第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る	・性と生殖に関する健康について学ぶ ・子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する		
3	3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	・子どもの生活習慣や衣食住について理解する ・子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする ・現代の子育て環境の変化や課題について理解する		7時間	
授業展開	座学を中心としながら、生産技術の進歩と社会の変化との関連について、コンピュータを活用した実験・実習を通して考察するよう工夫して指導する。				
使用教材等	「新 家庭総合 自立・共生・創造」 東京書籍				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関りについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	生涯を見通して、家族や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
主な 評価 方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	授業プリントおよび提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。